

文芸くらがわ

短歌

【岩瀬短歌会】

葦の葉を微かにゆらす桜川よどみの底に春を眠らせ

泉 三郎

昨夜まきし追儺の豆がそちこちに金にまろびて春の陽返す

広沢 日出子

草の根につき来し虫のやはやはと幼子の手に身を縮めたり

古賀 澄

陽光にいまし咲かんと身じろぐや紅梅白梅枝に並びて

大関 登志子

たわやすく孫を詠む歌多けれど多者の思いを推して知るべし

石田 守子

苦も楽も互みに分け合い五十年庭木に目白の番きており

渡辺 しな子

ガラス戸へ激突したる目白ありわが手にぬくみ残して死せり

瀧井 幸子

姑逝きて久方ぶりの健康体操に友ら優しく春の日穏し

雨谷 友子

見合いのあと梅林を歩きし日もありぬ今はコタツに二人向き合う

浜野和 操

恍惚の人となりたる父と佇つ廢屋の庭花やわらかき

川崎 邦子

暖冬に育ちすぎたる大根を手にして農夫は顔くもらせる

大久保 富美江

うす紅の梅花開きてほのかにも香りくるなり春のさきがけ

鈴木 英雄

訓練の予告がありてたちまちにJアラートの音響きくる

小林 美瑛子

小桶の水一滴も無駄にせず雲水四季を尊ぶという

久保 悦子

観音の急な石段登れずにはたんざくらを下よりのぞむ

萩原 きしの

【一般投稿】

奥山に鶯の聲爽やかに虚空響き春酩に

鈴木 省一

俚謡

【さくら俚謡会】

今じゃ故郷遠退くばかり友は西空飾る星

山もみじ

路地へ灯った赤提灯も消えて淋しい石の町

花野 しぐれ

コロナウイルスいつまでいるの早く出て行つて土用干し

みなのか 遊

いい事あった日にこにこする日ビール

稲葉 建正

マスク文化が根付いた夏は笑顔見られず世が代わる

田 哲人

俳句

【一般投稿】

巢ごもりに句作に励む令和なり

長堀 芳江

雪かしら小手毬が散る夕の月

友常 小蝶

2020年秋 障がい者
生活介護事業所
新規オープン予定
今年度オープニングスタッフ募集



新規利用の方向け **サービス説明会** オンライン版



今年はホームページで開催中!
特設ページはこちらから



社会福祉法人 **上の原学園** TEL. 0296-75-2509
〒309-1226 茨城県桜川市上野原地新田159-1